

令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	83	学校名	静岡県立浜松湖北高等学校 佐久間分校	校長名	大澤 貢
------	----	-----	-----------------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	<b>授業に真剣に取り組む態度を育成するとともに、「分かる・学力が付く授業」を実践する。</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業が分かる率」95%以上</li> <li>・「学力が付いた率」95%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業が分かる率」96.6%</li> <li>・「学力が付いた率」96.7%</li> </ul>	A	一人一台端末を効果的に活用し、生徒の学びを深める授業実践を進めていきたい。
	丁寧で手厚い教育の成果がより反映される体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価に関する職員研修2回以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価が適切に行われることを目的として、新学習指導要領の実施に対応した指導方法の研修を3回実施した。</li> <li>・年度末に次年度に向けたシラバス作成方法について情報を共有した。</li> </ul>	A	新学習指導要領に対応した指導・評価の方法の検討を続け、生徒の実態に即して改善を続けていきたい。
	図書室と進路指導との連携を深め、情報収集や探究のための閲覧・読書を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科や進路に関する図書室利用年3回以上</li> <li>・図書貸出数100冊以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図書だより」年2回発行</li> <li>・進路に関する図書室利用1回</li> <li>・図書貸出数147冊</li> </ul>	B	社会科学系統の書籍を強化できた。進路指導等で図書室を利用する場面も見られたが、今後は日常生活面で読書指導を徹底したい。
イ	授業や総合的な探究の時間で生徒の発信力を高める活動をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での発表活動 学期2回以上</li> <li>・総合的な探究の時間での発表会 年2回以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員が学期2回以上の発表活動を実施した。</li> <li>・総合的な探究の時間ではそれぞれの学年で複数回の発表の機会を設けた。</li> <li>・1年生では外部講師を招き効果的なプレゼンの方法を学んだ。</li> </ul>	A	発表のスキルを身に付ける機会を計画的に設け、発表の質の向上にも努めたい。

ウ	<p><b>高い志の育成に努め、生徒の進路希望の実現を図る。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路対策に満足していると答える生徒 80%</li> <li>・就職内定率 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路対策に満足していると答える生徒 89%</li> <li>・国立大合格 1名</li> <li>・就職希望者全員が第一志望から内定</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味がある分野や業種について探究（発表）することができた。</li> <li>・将来取り組みたいことに向けて主体的に行動できるよう支援したい。</li> </ul>
エ	<p><b>学校設定教科「地域」を充実させ、地元大学との連携や地域との関わりを深める。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材等の活用 年 10 回以上</li> <li>・授業内での発表会 2 回以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元大学や企業から計 15 回の講義を実施した。</li> <li>・実践報告会とまちむらりレーション市民交流会議で実践内容を発表した。</li> </ul>	A	<p>地域活性化にも取り組む長坂養蜂場への訪問や天竜高校と共同しながら地域課題の解決に取り組めた。</p>
オ	<p><b>節度ある生活態度の実践を図り、行事・部活動やボランティア活動の充実を図る。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事が有意義と答える生徒 80%</li> <li>・行事・部活動やボランティア活動に積極的な取り組みを行った生徒の割合 85%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事が有意義だと答えた生徒の割合 94.5%</li> <li>・部活動やボランティア活動に積極的な取り組みを行った生徒の割合 85.4%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も生徒が主体的で積極的に参加できるような行事の運営をしていきたい。</li> <li>・部活動やボランティアに積極的に取り組む生徒の割合も高い。地域の行事も再開しボランティアの機会も増えてきたため、今後さらに積極的に参加できるとよい。</li> </ul>
カ	<p><b>個に応じた指導の在り方を確立する。悩みや問題を抱えた生徒、いじめ等への早期対応を行う。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接 学期 1 回以上実施</li> <li>・いじめ等に関するアンケート 年 4 回実施</li> <li>・ケース会議 学期 1 回実施</li> <li>・カウンセラーとの面談 1 人 1 回以上</li> <li>・多様性に係る授業・講座年 1 回以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ等に関するアンケートを年 4 回実施し早期対応ができた。</li> <li>・ケース会議を学期に 1 回以上実施し結果を共有した。</li> <li>・1 人 1 回カウンセラーと 5 分面談を行った。</li> <li>・思春期講座において、多様性の講義を実施した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 学期後半と 2 学期前半にトラブルが発生しやすい。</li> <li>・地元以外から入学する生徒が増えたことで、ケース会議の必要性が増加している。</li> <li>・カウンセラーによる面談は細かなフィードバックがなされ、生徒の内面を知るのに効果が大きかった。</li> <li>・多様性の理解を深めるうえで、外部講師による講義は成果があった。</li> </ul>

様式第3号

					しかし、講師の選定や内容の取扱いは非常に難しいと感じた。
キ	中高の行事交流等を充実させ、中高の一体感を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同一教科の中学校教員との意見交換年6回以上。</li> <li>・事後アンケートにより、「よかった」と答える中高生90%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同研修会や交流授業など様々な場で中学校教員との意見交換を行うことができた。</li> <li>・中高交流会は台風による休校のため、実施できなかった。</li> <li>・中高合同体育祭がよかった割合97.9%。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校と一体となった指導ができるよう、日常的な連携を深めていきたい。</li> <li>・実施できた行事については、中高で協力しながらできてよかったという意見が多かった。</li> </ul>
ク	ICT等を活用した授業や会議等を行うことにより、教育の質を維持し、効率的な学校運営を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した授業ができる教員の割合90%以上</li> <li>・遠隔授業の機器操作全教員いずれか年2回以上</li> <li>・授業に工夫していると答える生徒70%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した授業ができる教員の割合が100%となった。</li> <li>・遠隔授業の実施を年間19回行い、機器操作および授業見学を行うことができた。</li> <li>・授業に工夫していると答えた生徒が98.1%</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業の準備を情報担当が行うことにより、遠隔授業担当の負担を減らすことができた。</li> <li>・今後は遠隔授業以外でもオンライン教育の体制を充実させることが必要。</li> </ul>
ケ	安全安心な校内環境の整備に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2週間に1度の定期的な点検</li> <li>・職員への聞き取り 学期1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2週間に1度の定期的な点検</li> <li>・職員への聞き取り 2回</li> </ul>	B	学校周りへの防獣ネットの設置。聞き取り調査で危険箇所を確認できた。
コ	保護者・地域等との関わりを深め、広報の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ・インスタグラムの更新 週2回以上</li> <li>・「佐高だより」の発行・回覧 年3回</li> <li>・地域行事に関わった生徒70%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ・インスタグラムの更新 月平均計17.8回。</li> <li>・「佐高だより」の発行2回と予定1回。</li> <li>・63.6%の生徒が地域行事にボランティア等で参加した。</li> </ul>	A	ホームページはスマホ対応改修を行い週2回以上の更新ペースを維持した。インスタグラムも週1.8回更新した。「佐高だより」は予定通り発行できた。
サ	時間の活用を工夫する。業務負担の平均化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退勤日(スーパー定時退勤日含む)を月1回計12回以上設定し、90%以上の教員が実施する。</li> <li>・スーパー定時退勤日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退勤日実施率(17:30まで)81.2%</li> <li>・スーパー定時退勤日実施率100%。</li> <li>・時間外勤務 年360時間以内2人</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月は定時退勤日が守れず日程変更が必要。</li> <li>・新たに分掌課長となった教員は負担が大きく、業務</li> </ul>

様式第3号

		を学期に1回設定し、 100%実施する。 ・時間外勤務 年360 時間以内6人以上(R3 4人)			割振りや適切な補助が課題。
--	--	--	--	--	---------------